

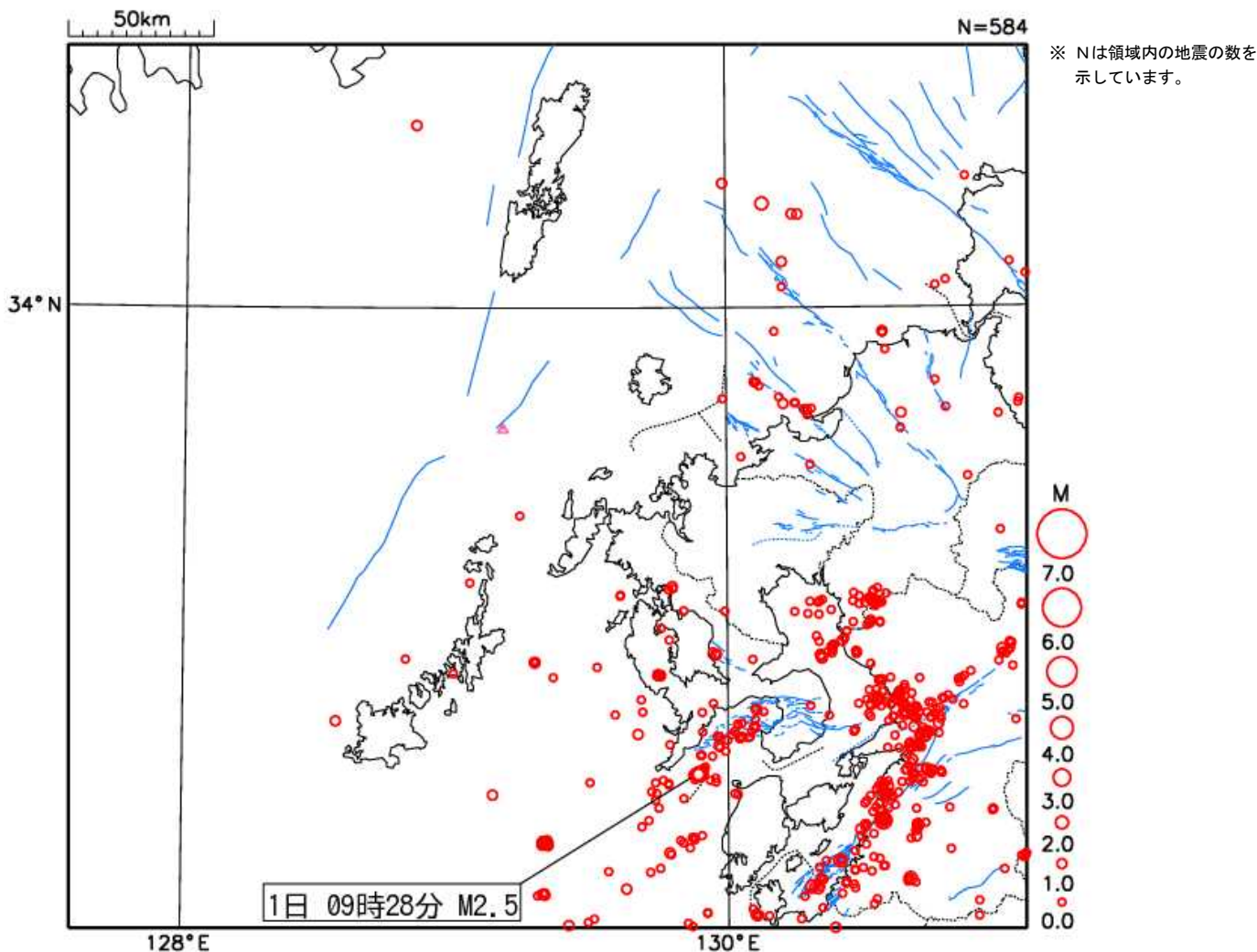
長崎県の地震活動概況（2024 年 4 月）

令和 6 年 5 月 10 日

長崎地方気象台

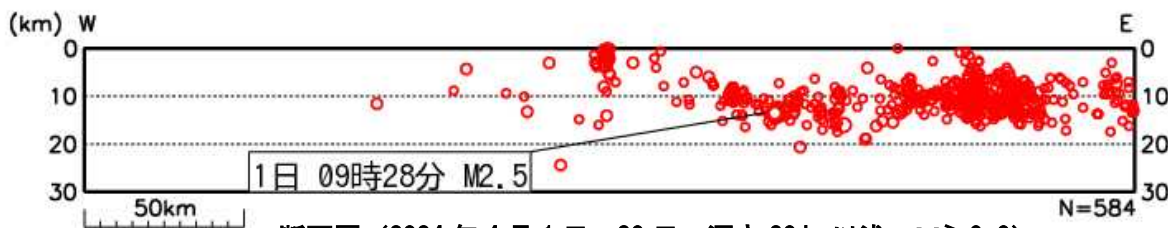
地震活動の概況（2024 年 4 月）

4 月に長崎県内で震度 1 以上を観測した地震は 4 回でした（震央分布図領域外の 3 回を含む。3 月は 1 回）。詳細は 2～5 ページのとおりです。



震央分布図（2024 年 4 月 1 日～30 日、深さ 30km 以浅、M≥0.0）

※図中の青色の線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示しています。



断面図（2024 年 4 月 1 日～30 日、深さ 30 km 以浅、M≥0.0）

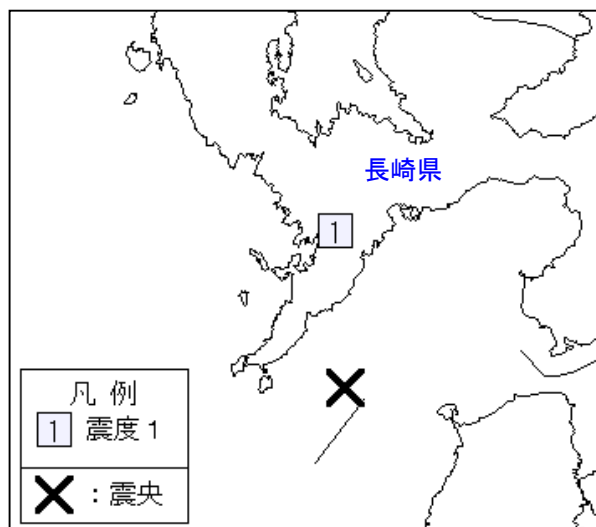
（震央分布図を南の方から見た断面図です）

※ 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

天草灘

1日09時28分に天草灘（情報発表に用いた震央地名は「橘湾」）で発生した M2.5 の地震（深さ 14km）により、長崎市で震度 1 を観測しました（図 1）。

今回の地震の震源付近（図 2 領域 a）では、2024 年 1 月 24 日に M2.7 の地震（深さ 13km）が発生し、長崎市で震度 1 を観測しました（図 2、図 3）。



4 月 1 日 09 時 28 分 M2.5

図 1 震度分布図（観測点別）

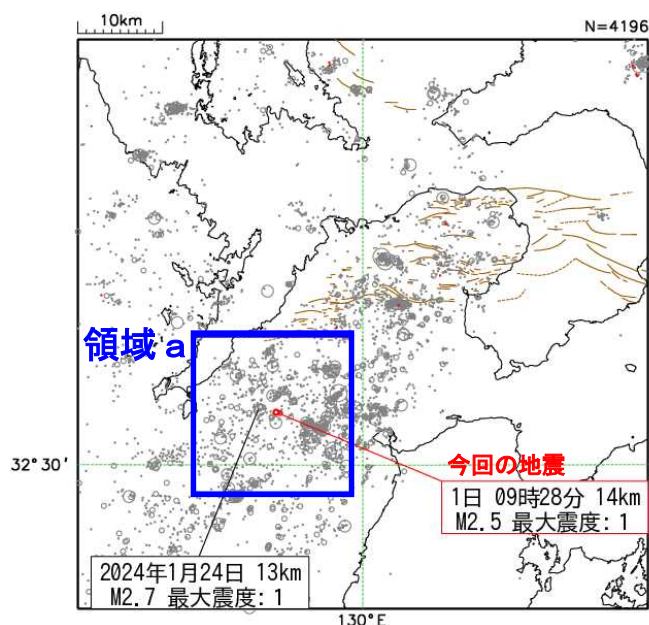


図 2 震央分布図

(2000 年 10 月 1 日～2024 年 4 月 30 日 深さ 0km～30km M $\geq$ 1.0)

※2024 年 4 月の地震を赤で表示。

※図中の茶色は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

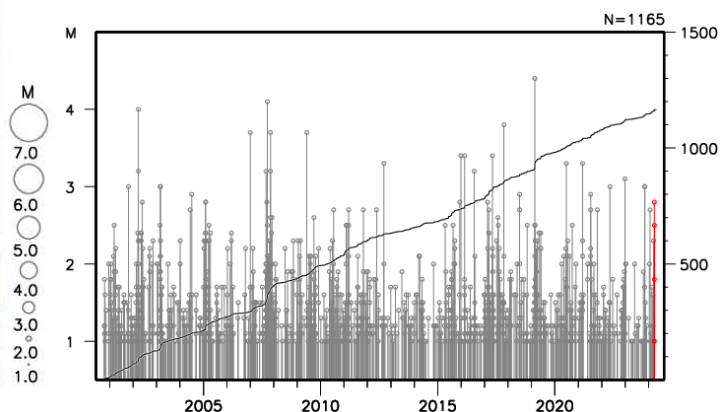
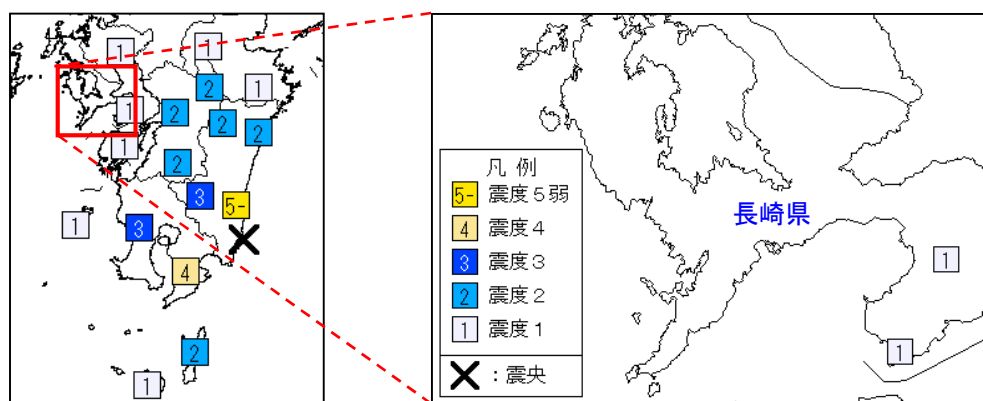


図 3 図 2 領域 a 内の地震活動経過図及び回数積算図

大隅半島東方沖(1頁震央分布図領域外)

8日10時25分に大隅半島東方沖で発生したM5.1の地震(深さ39km)により、宮崎県日南市で震度5弱を観測したほか、九州地方で震度4～1を観測しました。長崎県では、雲仙市及び南島原市で震度1を観測しました(図4)。

今回の地震の震源付近(図6領域c)では、2022年10月2日にM5.9の地震(深さ29km 最大震度5弱)が発生し、長崎県では南島原市で震度2を観測したほか、長崎市、諫早市、雲仙市及び島原市で震度1を観測しました(図5～図7)。



4月8日10時25分 M5.1

図4 震度分布図(左:地域別、右:観測点別)

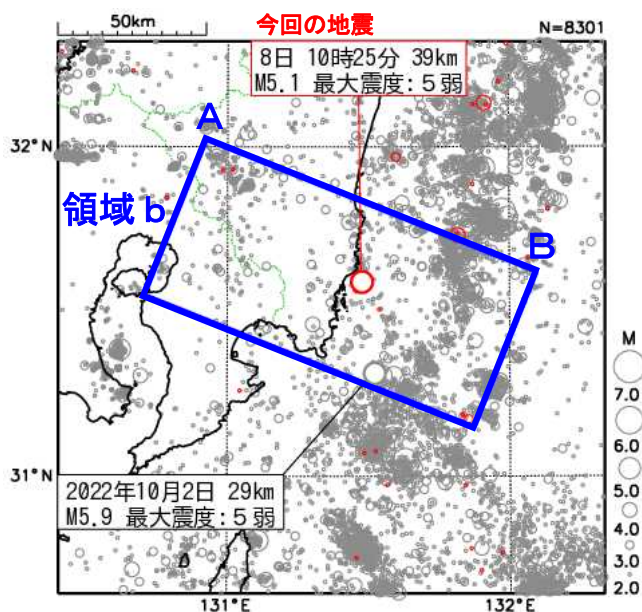


図5 震央分布図

(1997年10月1日～2024年4月30日 深さ0km～100km $M \geq 2.0$)

※2024年4月の地震を赤で表示

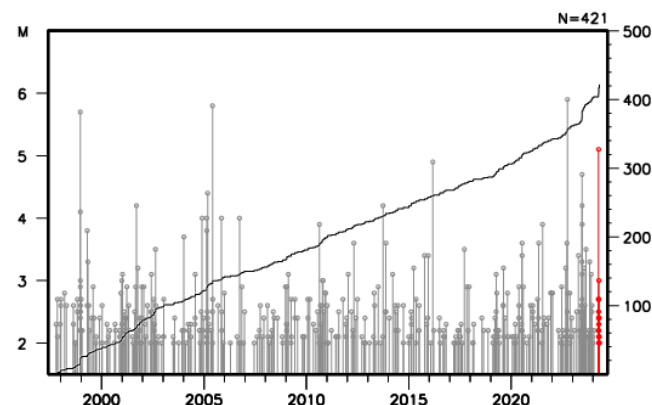


図7 図6領域c内の地震活動経過図及び回数積算図

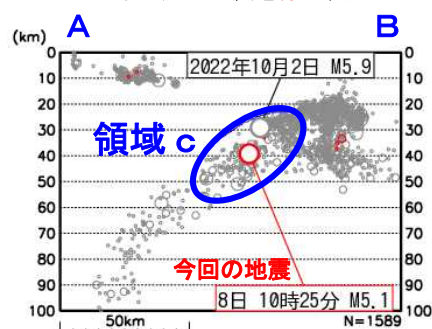
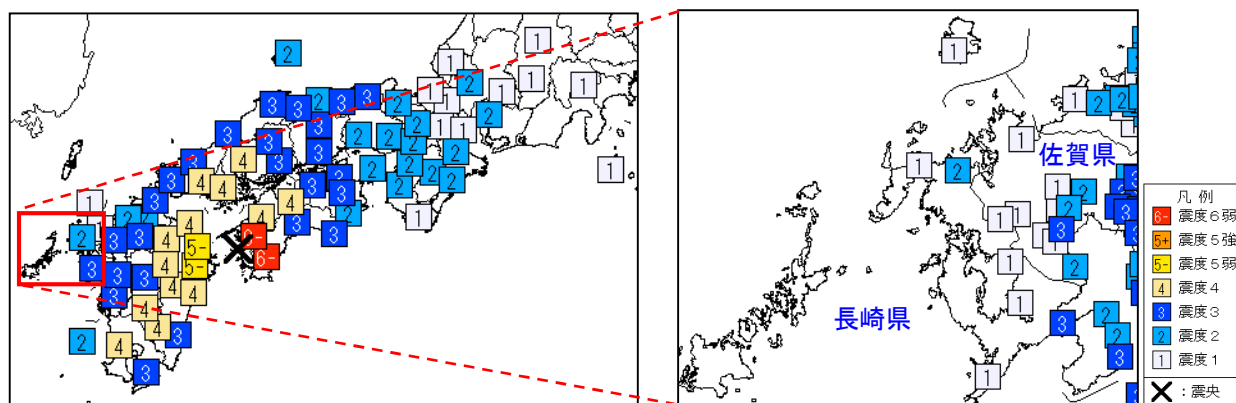


図6 図5領域b内の断面図(A-B投影)

豊後水道(1頁震央分布図領域外)

17日23時14分に豊後水道で発生したM6.6の地震(深さ39km)により、愛媛県愛南町、高知県宿毛市で震度6弱を観測したほか、九州地方から関東地方にかけて震度5強～1を観測しました。長崎県では、諫早市及び南島原市で震度3を観測したほか、県内の広い範囲で震度2～1を観測しました(図8)。

今回の地震の震源付近(図10領域e)では、2018年2月19日にM5.0の地震(深さ40km、最大震度4)が発生し、長崎県では、諫早市で震度1を観測しました(図9～図11)。



4月17日23時14分 M6.6

図8 震度分布図(左:地域別、右:市区町村別)

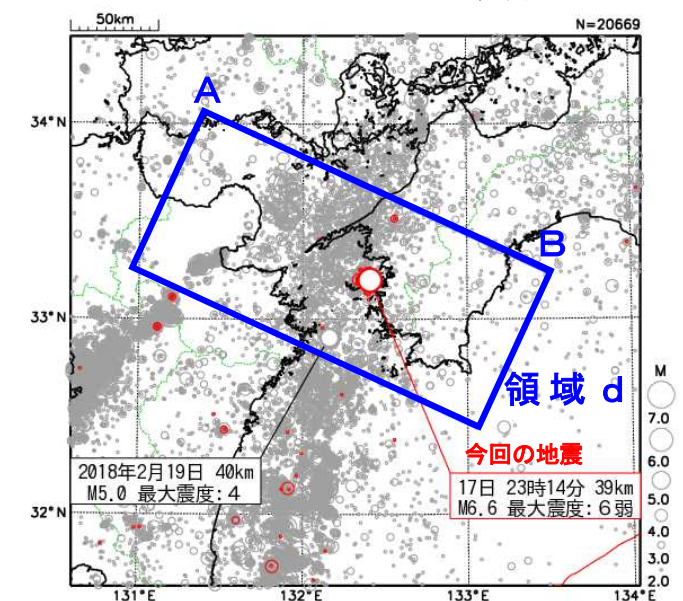


図9 震央分布図

(1997年10月1日～2024年4月30日 深さ0km～100km $M \geq 2.0$)

※2024年4月の地震を赤で表示

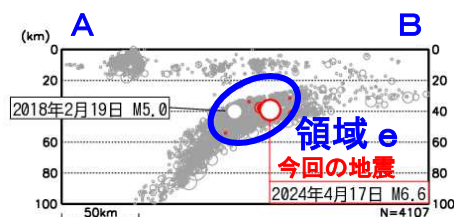


図10 図9領域d内の断面図(A-B投影)

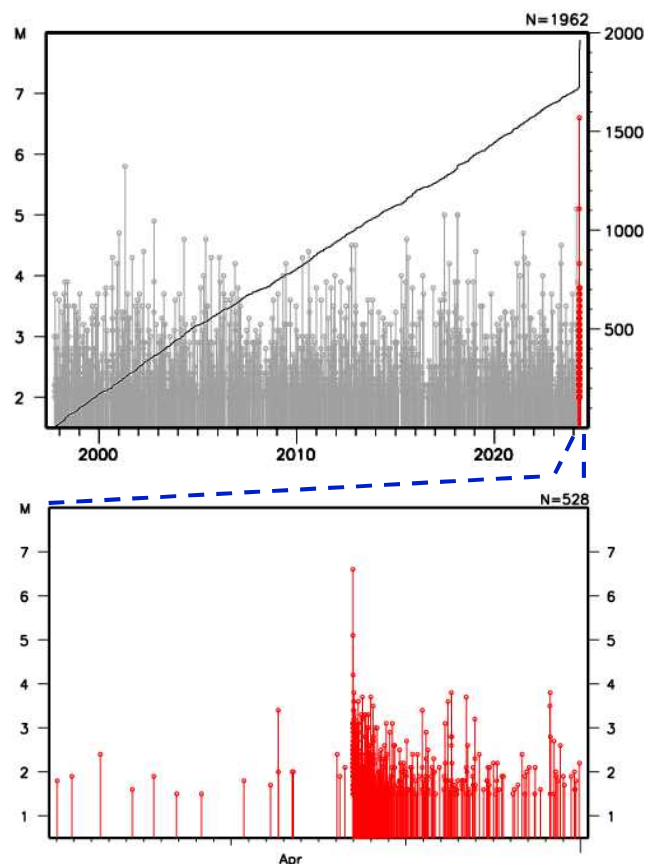


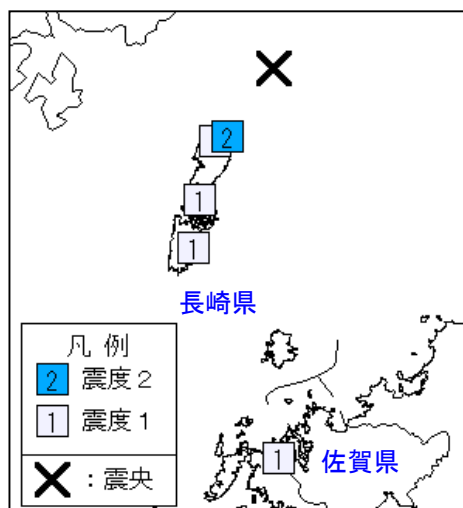
図11 図10領域e内の地震活動経過図及び回数積算図

(上段: 1997年10月1日～2024年4月30日、 $M \geq 2.0$
下段: 2024年4月1日～2024年4月30日、 $M \geq 1.5$ 、
地震活動経過図のみ)

福岡県北西沖(1頁震央分布図領域外)

19日23時27分に福岡県北西沖で発生したM4.1の地震により、長崎県の対馬市で震度2を観測したほか、松浦市で震度1を観測しました(図12)。

今回の地震の震源付近(図13 領域f)で発生した地震により、長崎県内で震度1以上を観測したのは、地方公共団体(長崎県)の震度データの活用を開始した2002年7月29日以降初めてです(図13～図14)。



4月19日23時27分 M4.1

図12 震度分布図(観測点別)

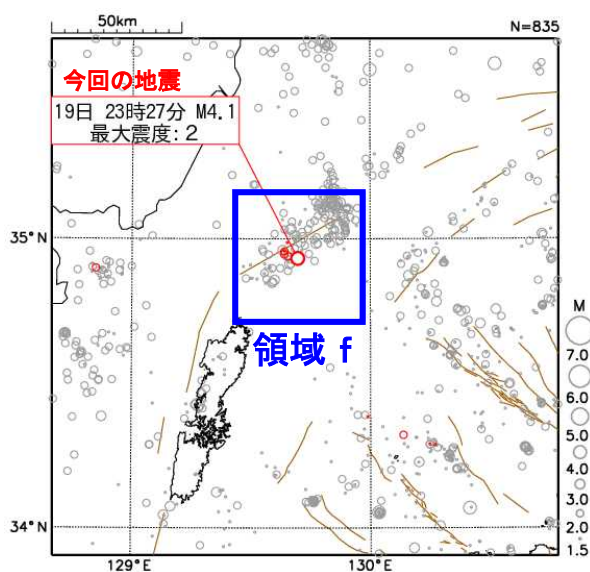


図13 震央分布図

(1997年10月1日～2024年4月30日 深さ0km～30km M≥1.5)

※2024年4月の地震を赤で表示。

※図中の茶色は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

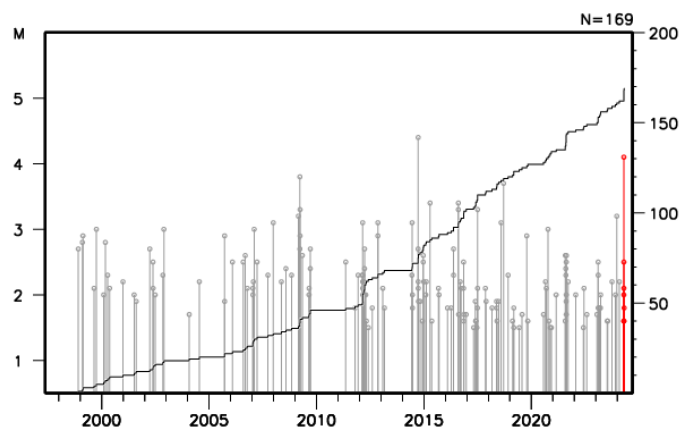


図14 図13 領域f内の地震活動経過図及び回数積算図

長崎県内で震度 1 以上を観測した地震の表（4 月 1 日～30 日）

地震発生時刻 各地の震度	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
2024 年 04 月 01 日 09 時 28 分 震度 1：長崎市元町＊	天草灘	32° 33.3' N	129° 53.4' E	14km	M2.5
2024 年 04 月 08 日 10 時 25 分 震度 1：雲仙市小浜町雲仙, 南島原市口之津町＊	大隅半島東方沖	31° 35.4' N	131° 28.6' E	39km	M5.1
2024 年 04 月 17 日 23 時 14 分 震度 3：諫早市森山町＊, 南島原市深江町＊ 震度 2：松浦市志佐町＊, 諫早市堂崎町＊, 諫早市多良見町＊, 島原市下折橋町＊, 島原市有明町＊ 雲仙市国見町, 雲仙市小浜町雲仙, 雲仙市千々石町＊, 雲仙市吾妻町＊ 雲仙市小浜町北本町＊, 雲仙市南串山町＊, 雲仙市瑞穂町＊, 雲仙市愛野町＊ 南島原市口之津町＊, 南島原市南有馬町＊, 南島原市北有馬町＊, 南島原市西有家町＊ 南島原市布津町＊, 南島原市加津佐町＊, 南島原市有家町＊ 震度 1：平戸市岩の上町, 平戸市鏡川町＊, 東彼杵町蔵本＊, 長崎市布巻町＊, 諫早市東小路町 諫早市小長井町＊, 大村市玖島＊, 雲仙市雲仙出張所＊, 壱岐市郷ノ浦町＊	豊後水道	33° 12.0' N	132° 24.5' E	39km	M6.6
2024 年 04 月 19 日 23 時 27 分 震度 2：長崎対馬市上対馬町＊ 震度 1：松浦市志佐町＊, 長崎対馬市厳原町東里, 長崎対馬市豊玉町＊, 長崎対馬市上県町佐須奈＊	福岡県北西沖	34° 55.9' N	129° 41.7' E	15km	M4.1

注) 震源要素（緯度・経度・深さ・M）は、暫定値であり、データは後日変更されることがあります。
＊を付した地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

地震資料に掲載される図の見方

長崎地方気象台では、地方公共団体等による日頃の災害予防の活動を支援するため、長崎県内の地震活動の状況として「長崎県の地震活動概況」を定期的に作成・公表しています。また、長崎県で震度4以上の揺れを観測した場合や津波警報等を発表した場合には、防災対応に資するために「地震解説資料」を公表しています。

今回は、「平成28年(2016年)熊本地震」を例として、これらの資料に掲載される主な図の見方について解説します。

1. 震度分布図(図1)

震度分布図は、各地の震度観測点で観測した震度を地図上に表示し、地震による揺れの強さや範囲を表現したものです。震度5と震度6にはそれぞれ強弱があり、例えば震度6強は「6+」、震度6弱は「6-」と表示します。また、地震による揺れが広範囲にわたる場合には、図が煩雑にならないように、各地域内、各市区町村内で観測した震度の中で最も大きな震度を代表させて表示することがあります(図1は地域別の震度分布図の例)。

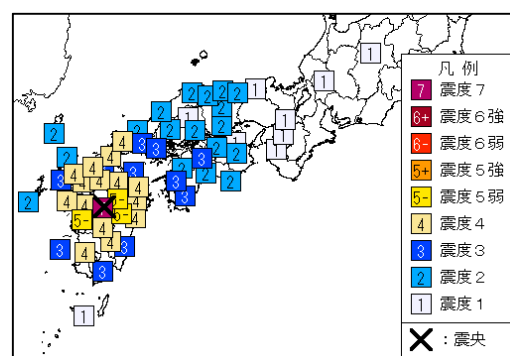


図1 震度分布図(地域別)

2. 震央分布図(図2)、断面図(図3)

震央分布図は、地震が発生した場所を地図上に表示し、地震活動の面的な広がりや表現したものです。表示するシンボルの大きさを変えることで、地震の規模(マグニチュード、以下、「M」)を表現しています。なお、地震の発生した深さをシンボルの形を変えて表現する場合もあります。また、断面図により地震活動の立体的な広がりを表現します。図3は、図2の中の青線で区切られた領域を南東方向から見た断面図です。この断面図を見ると、深さ20kmよりも浅い所で地震が発生していることが分かります。

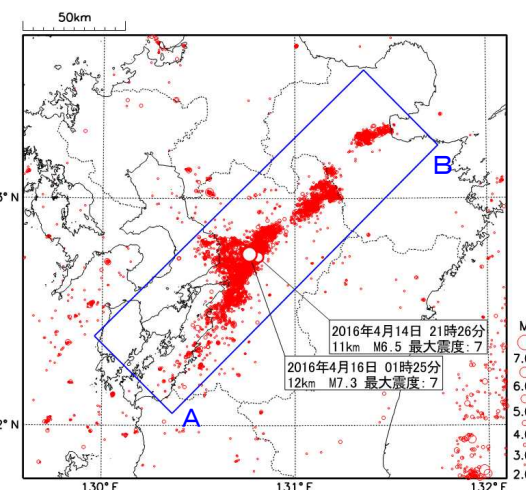


図2 震央分布図

3. 地震活動経過図と回数積算図(図4)

地震活動経過図と回数積算図は、ある領域内で発生した地震の規模や数(回数積算)について、時間の経過に伴う変化を表現したもので、横軸に時間、縦軸に規模や数(回数積算)を表しています。

図4は、図2の中の青枠で区切られた領域内の地震活動経過図と回数積算図です。この図を見ると、2016年4月16日にM7.3の地震が発生した後、時間の経過とともに発生した地震の規模が小さくなり、その数も徐々に減少していますが、活動は継続していることが分かります。



図3 断面図(A-B投影)

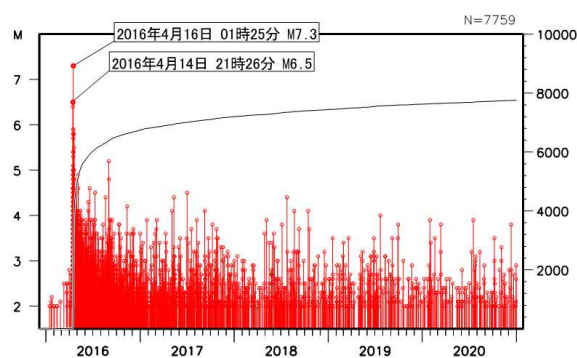


図4 地震活動経過図及び回数積算図